

2007 年度

科目名 考古学実習 I	対象学科・学年 文学部文財 4 回生	担当者 犬木 努
授業テーマ 考古学に関わる諸技術の基礎を修得する。		
授業の概要と目標 考古学においては、発掘調査から整理作業、報告書作成作業にいたるまで、さまざまな特殊技術の習得が不可欠である。考古学徒として必要なことは、第一に遺跡の発掘を行うことができること、第二にモノの実測ができることである。これらは実習の授業だけで、一朝一夕に学べることではないが、とりあえず考古学徒としてめざすべき地平（考古学界として保つべき水準）を知ってもらうとともに、できる限りそれに近い技術を体得してもらう。		
評価方法 ①普段の提出物の出来具合、②出席状況、③レポートによる。 なお、レポートについては、4～5回程度、適宜、授業内容に関する内容で作成してもらう。		
テキスト 『博物館実習マニュアル』	著者 全博協西日本部会編	出版社 芙蓉書房出版
参考書 授業中に適宜指示する。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 授業時数は30回程度。 主として以下のような内容の授業を行う。 ①拓本の採り方：乾拓・湿拓作業の基本を学ぶ。中国鏡、柄鏡、土器、埴輪など。 ②資料の接合・復元：陶磁器の接合、石膏による復元。 ③資料の実測：実測図の作成方法を学ぶ（土器・石器・埴輪など） ④図面のトレース ⑤写真撮影：撮影（ライティングなど）、現像、焼付、引伸の基本を学ぶ ⑥版組、割付けの方法 ⑦地図の読み方（いわゆる読図） ●本実習は、考古学に必要な専門技術について、高いレベルでの習得を目指すものであり、中途半端な気持ちで受講しないこと。 ※各項目をそれぞれ数回にわたって行う。また順番・内容については変更する場合がある。		